

明治大学国際学会・シンポジウム

『International Conference on Structural Economic Dynamics』

報告書

開催日時：2012年9月3日～5日

場所：明治大学・駿河台キャンパス

アカデミーコモン9F309A, B教室

リバティタワー1Fリバティホール

報告者：

政治経済学部教授

里見常吉

ケンブリッジ大学及びミラノ・カトリック大学を拠点として活躍されてきた世界的にも著名な経済学者である L.L.パシネッティ教授(ミラノ・カトリック大学名誉教授)ご夫妻を招へいし、パシネッティ教授の研究テーマである構造経済動学(Structural Economic Dynamics)に関する国際会議を明治大学で開催した。この会議は、ポスト・ケインズ派経済学研究会(主催)、リカードウ研究会(共催)、環太平洋産業連関分析学会(共催)、明治大学政治経済学部、明治大学大学院政治経済学研究科、明治大学国際連携本部の協力の下で開催された。実施の詳細は、ホームページ：<http://www.kisc.meiji.ac.jp/~confyagi/September2012.html> で公開されている。

海外からの主な参加者は、パシネッティ教授、P.L.Porta 教授(ミラノ大学ビコッカ校)、Enrico Bellino 教授(ミラノ・カトリック大学)、Neri Salvadori 教授(ピサ大学)、Davide Gualerzi (パドヴァ大学教授)、Kevin Foster 准教授(シティー・カレッジ・オブ・ニューヨーク)、Alla Kirillovskaya(サントペテルブルク大学)、C.Marcuzzo 教授(ローマ大学ラ・サピエンツァ)、Noel Thompson 教授(スウォンジー大学)等である。国内からも多数の報告者があり、3日間の国際会議における報告数は40報告を超えるものとなった。また、報告テーマについても、Structural Economic Dynamics に関する報告を中心として、経済理論、経済学史、実証分析の分野をカバーする幅広いものであり、学術的にも非常に有意義な会議であった。

9月4日午後の全体会については、明治大学大学院政治経済学研究科の協力を得て、その特別講義として、パシネッティ教授による基調講演：Structural Economic Dynamics と、P.L.Porta 教授による講演：Structural Economic Dynamics: its sources in the History of Economic Analysis を実施した。パシネッティ教授の講演には100名を超える参加者が集まった。また9月3日午後には、リカードウ研究会によってリカードウ及びパシネッティ教授の研究の評価に関する全体会が組織され、パシネッティ教授との討論等が行われた。最終日の9月5日にはポスト・ケインズ派経済学研究会の組織により構造変化やマクロ経済分析に関する理論的研究に関する研究報告が行われ、パシネッティ教授との討論が行われた。パシネッティ教授のお話は3日間とも予定を大きく超え90分に及び、9月12日で82歳になるパシネッティ教授との貴重な時間を持つことができた。

今回の国際会議には、本学政治経済学部の里見常吉、長峰章、八木尚志が国際会議準備・運営に係わり、政治経済学部長・大六野耕作がパシネッティ教授の基調講演の開会の挨拶、政治経済学部教授・里見常吉が閉会の挨拶等を、伊藤剛、堀金由美、武田巧、八木尚志が司会等を担当した。また数多くの本学の教員、大学院生、学部生も多数参加した事実から、今回の国際会議の開催が本学の今後の研究の発展にも寄与していくことを期待したい。